

証券コード6859

エスペック株式会社
2022年度(2023年3月期)
第2四半期決算説明

2022年11月24日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

ESPEC CORP.

代表取締役 執行役員社長の荒田でございます。
それでは、決算概要についてご説明いたします。

2022年度第2四半期 決算概要

エレクトロニクスおよび自動車関連が好調に推移し、受注高・売上高は過去最高を更新
営業利益は前年同期比で大幅増加、予想比では部品調達難・部材価格高騰により未達

	前年同期比	期初予想比
■ 受注高	○ 装置事業(主に環境試験器)が大幅に増加	○ 装置事業(主に環境試験器)が想定を大幅に上回る
■ 売上高	○ 装置事業(主に環境試験器)が大幅に増加	△ 部品調達難の継続により主に装置事業がやや下回る
■ 営業利益	○ 販管費は増加したが増収により大幅に増加	× 売上高の未達、生産効率の改善遅れ、部材価格高騰により下回る(販管費は予想内)
■ 経常利益 親会社株主に帰属する四半期純利益	○ 営業利益の増加により増加	× 営業利益の減少により下回る

■ 10月28日、第2四半期および通期の業績予想を修正

配当については期初予想より修正なし(中間24円、期末45円、年間69円)

ESPEC CORP.

1

2022年度第2四半期の決算総括といたしましては、社会のデジタル化と脱炭素化を背景に、エレクトロニクスおよび自動車関連の投資が好調に推移し、受注高・売上高は過去最高を更新いたしました。営業利益は、前年同期比では大幅に増加したものの、予想に対しては、部品調達難の継続および部材価格の高騰により未達となりました。

まず前年同期比では、為替の影響もあり、受注高・売上高ともに装置事業の環境試験器が大幅に増加いたしました。エリアでは主に日本が増加し、北米や中国など海外も増加しました。営業利益につきましては、増収により大幅に増加いたしました。

期初予想に対しては、受注高は想定を大幅に上回りました。売上高につきましては、部品調達難により主に装置事業において、やや下回りました。営業利益につきましては、売上高の未達に加え、生産効率の改善が進まなかったこと、さらに部材価格の高騰により、下回りました。

このような状況をふまえ、10月28日に第2四半期および通期の業績予想を修正しました。なお、配当につきましては、期初予想から変更しておりません。

損益の状況

	2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	（百万円） 期初予想比
受注高	26,569	24,000	33,266	+25.2%	+38.6%
売上高	17,568	23,500	22,945	+30.6%	△2.4%
売上原価 （原価率）	11,686 （66.5%）	15,150 （64.5%）	15,150 （66.0%）	+29.6% 0.5pt改善	+0.0% 1.5pt悪化
売上総利益	5,881	8,350	7,794	+32.5%	△6.6%
販管費	5,485	6,400	6,399	+16.7%	△0.0%
営業利益	396	1,950	1,395	+252.3%	△28.4%
経常利益	474	2,000	1,731	+264.6%	△13.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	230	1,300	984	+326.8%	△24.3%

2021年7月よりエスベックサーマルテックシステム株式会社を連結の範囲に含めています。

こちらが損益の状況です。

前年同期比では受注高はプラス25.2%、売上高はプラス30.6%と大幅に増加しました。原価率については0.5ポイントの改善にとどまりました。販管費は16.7%増加しましたが、増収効果により、営業利益は252.3%の増加となりました。

期初予想に対しては、受注高は大幅に上回りましたが、売上高はやや下回りました。原価率については1.5ポイント下振れました。販管費については予想内に抑えたものの、営業利益はマイナス28.4%となりました。

セグメント別の損益の状況

		(百万円)				
セグメント		2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計 期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
装置事業	受注高	22,763	20,200	29,209	+28.3%	+44.6%
	売上高	14,421	20,000	19,650	+36.3%	△1.7%
	営業利益	322	1,850	1,403	+334.9%	△24.1%
サービス事業	受注高	3,334	3,200	3,470	+4.1%	+8.5%
	売上高	2,948	3,100	3,020	+2.4%	△2.6%
	営業利益	171	150	72	△57.9%	△51.8%
その他事業	受注高	610	750	747	+22.5%	△0.3%
	売上高	316	550	405	+28.0%	△26.3%
	営業利益	△99	△50	△80	-	-
連結消去	受注高	△138	△150	△161	-	-
	売上高	△119	△150	△130	-	-
	営業利益	1	0	△0	-	-
計	受注高	26,569	24,000	33,266	+25.2%	+38.6%
	売上高	17,568	23,500	22,945	+30.6%	△2.4%
	営業利益	396	1,950	1,395	+252.3%	△28.4%

セグメント別の実績については、ご覧のとおりです。

2022年度上期実績・受注高について

■ 受注高は、エレクトロニクスおよび自動車市場が想定以上に好調に推移

四半期ごとの受注高推移(連結)



※2023年度受注予定の前倒し分

ESPEC CORP.

4

2022年度の上期は期初の想定とは異なる事業環境となりましたので、あらためて説明いたします。

まず、受注高は先ほどの説明のとおり、エレクトロニクスおよび自動車市場が想定以上に好調に推移いたしました。こちらのグラフは四半期ごとの受注高推移ですが、1Q、2Qと160億円を超えており、過去にない水準となっています。

この受注高には、製品納期の長期化に伴う、2023年度受注予定の前倒し分や、為替変動による影響も含まれていると見ています。前倒し受注の額は、推定ですが20億円、為替変動による影響額は、プラス20億円です。

2022年度上期実績・売上高について

- 売上高は、1Qは調達難の継続に加え上海ロックダウンの影響を受けたが
2Qは製品納期が一部改善、調達見込みに応じて増産体制を整備し挽回



ESPEC CORP.

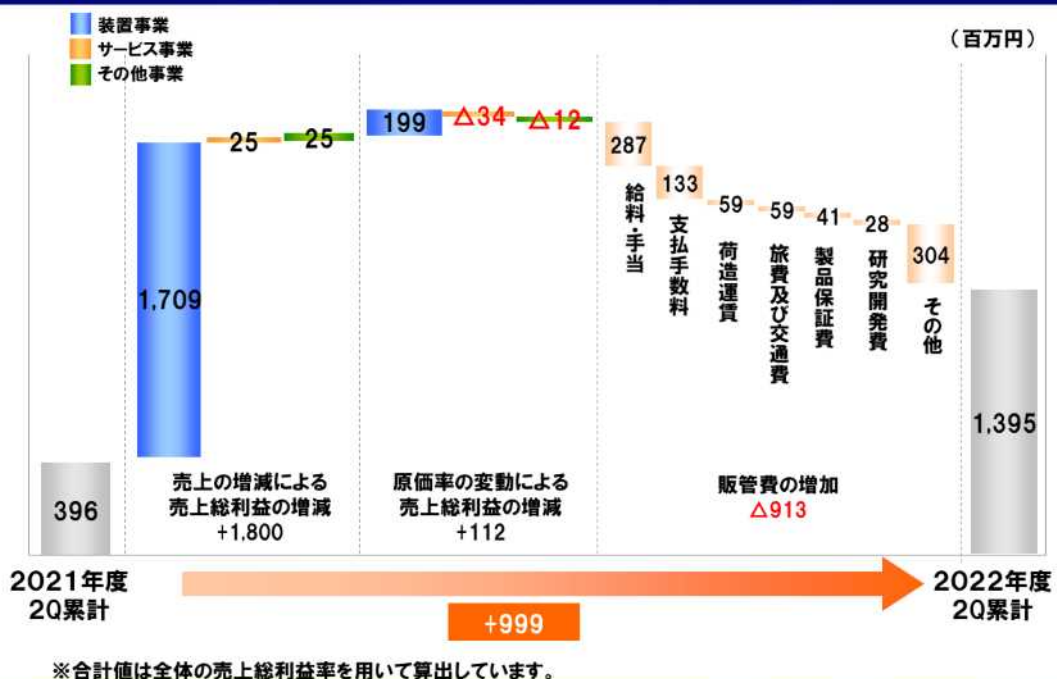
5

次に、売上高についてです。

こちらのグラフは、四半期ごとの売上高推移です。期初の段階では、調達難が徐々に改善すると見ていましたが、調達状況は改善されず、1Qには上海ロックダウンの影響もあり、厳しいスタートとなりました。2Qは、調達状況は不安定ではあるものの製品納期が一部改善し、また、調達見込みに応じた増産体制を敷いたことにより140億円を超える売上高を確保することができました。

なお、為替変動による影響は、上期でプラス17億円です。

上期営業利益の増減要因分析(前年同期比)



ESPEC CORP.

6

こちらは、営業利益の増減要因分析です。

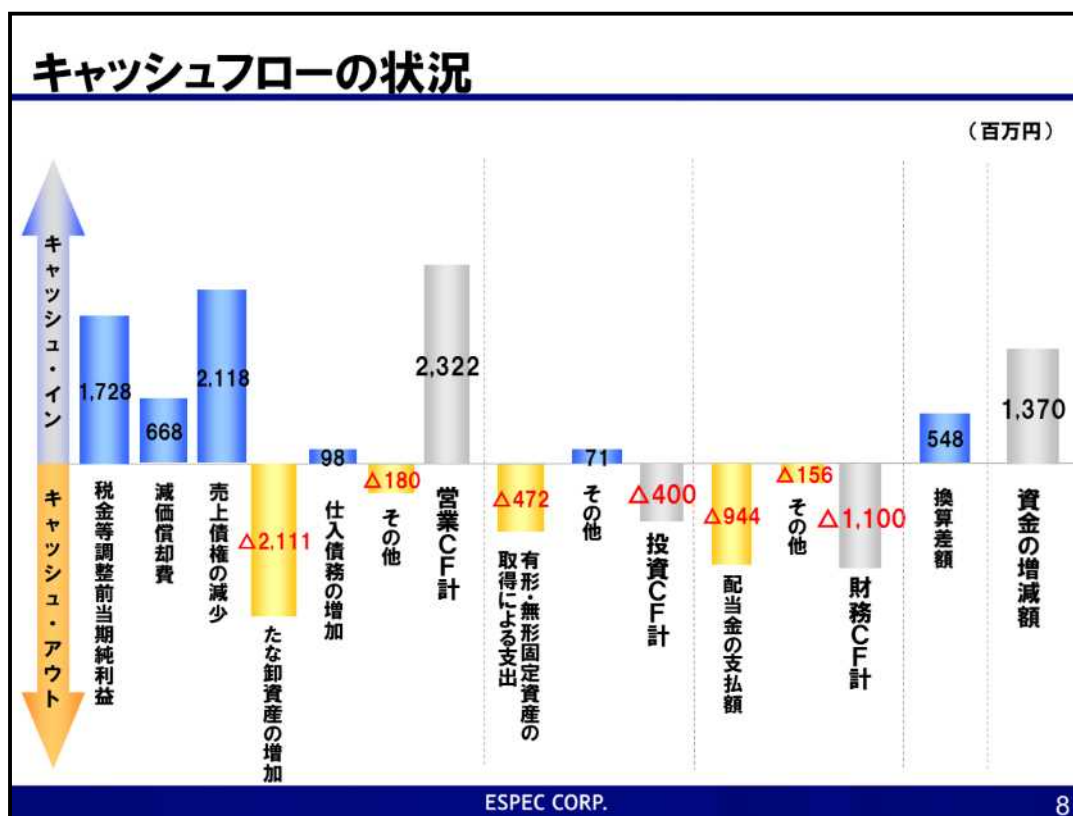
ご覧のとおり、販管費は増加したものの、主に装置事業の増収効果により前年同期比で約10億円増加いたしました。

資産・負債の状況



次に資産・負債の状況ですが、部品確保による原材料の増加や、部品不足による生産遅れ、コロナによる出荷遅延などにより、棚卸資産が増加し、資産が約28億円増加しております。

なお、純資産につきましては、為替換算調整勘定として約13億円の為替差異があり、結果、純資産が増加しております。



キャッシュフローの状況につきましては、ご覧のとおり、
資金が約13億円増加しました。

装置事業セグメント

	2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	(百万円) 期初予想比
受注高	22,763	20,200	29,209	+28.3%	+44.6%
売上高	14,421	20,000	19,650	+36.3%	△1.7%
営業利益 [利益率(%)]	322 [2.2%]	1,850 [9.3%]	1,403 [7.1%]	+334.9%	△24.1%

環境試験器

- 国内では、受注高は汎用性の高い標準製品・カスタム製品ともに前年同期比で増加
売上高は製品納期の改善が進んだ標準製品を中心に増加
- 海外では、受注高が好調に推移し、売上高は前年同期比で増加
中国、北米、東南アジア、欧州、韓国、台湾が増加

エナジーデバイス装置

- 自動車関連の投資の回復により二次電池評価装置の受注を獲得
受注高は前年同期比で増加、売上高は電子部品不足による製品納期の長期化により減少

半導体関連装置

- 自動車関連の投資が堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は増加

つぎに、セグメント別分析についてご説明いたします。

装置事業セグメントにつきましては、製品納期の長期化が継続しておりますが、前年同期比で受注高・売上高ともに増加し、営業利益も大幅に増加いたしました。

期初予想に対しては、受注高は大きく上回りましたが、製品納期の長期化により、売上高はやや下回りました。営業利益は、売上高の未達と原価率の改善が進まなかったことから下回りました。

製品群ごとの状況はご覧のとおりです。

サービス事業セグメント

(百万円)

	2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	3,334	3,200	3,470	+4.1%	+8.5%
売上高	2,948	3,100	3,020	+2.4%	△2.6%
営業利益 [利益率(%)]	171 [5.8%]	150 [4.8%]	72 [2.4%]	△57.9%	△51.8%

アフターサービス・エンジニアリング

- 保守契約など予防保全サービスが堅調に推移し、受注高は前年同期比で増加、売上高は前年同期並み

受託試験・レンタル

- 受託試験が堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は前年同期比で増加

次にサービス事業ですが、前年同期比では、受注高・売上高ともに増加いたしました。営業利益につきましては、4月に開始した新しい「ネットワークサービス」の運用費など販管費が増加し、減益となりました。

期初予想に対しては、受注高は増加しましたが、売上高・営業利益は下回っております。

サービス群ごとの状況につきましてはご覧の通りです。

その他事業セグメント

(百万円)

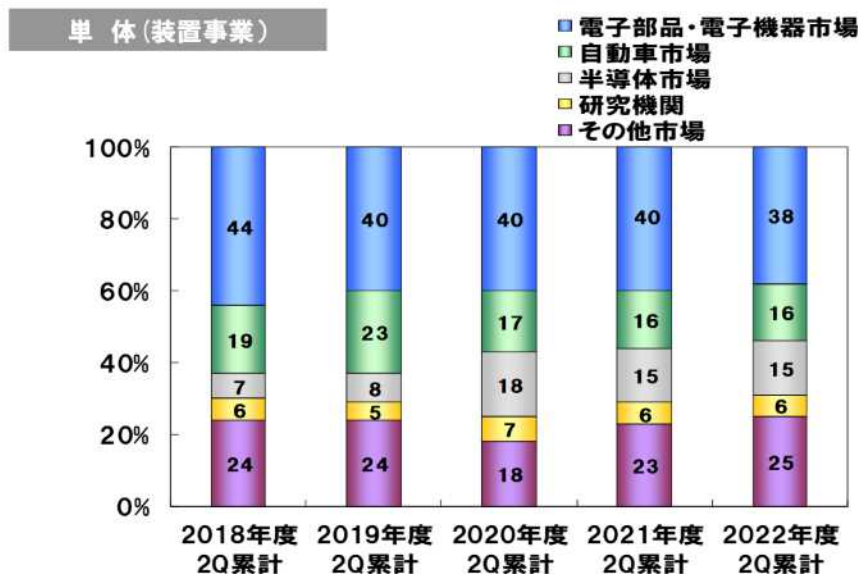
	2021年度 2Q累計実績	2022年度 2Q累計期初予想	2022年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	610	750	747	+22.5%	△0.3%
売上高	316	550	405	+28.0%	△26.3%
営業利益 [利益率(%)]	△99 [△31.5%]	△50 [△9.1%]	△80 [△19.8%]	-	-

環境保全・植物育成装置

- 森づくりが堅調に推移するとともに植物工場など植物育成装置の受注も獲得し、受注高・売上高ともに前年同期比で増加

環境保全事業や植物育成装置を手掛けるその他事業については、受注高・売上高ともに前年同期比で増加しましたが、営業損失となりました。

市場別売上構成比



ESPEC CORP.

12

こちらはエスペック単体の市場別売上構成比です。

まず、当社事業の中心的な市場であるブルーの電子部品・電子機器市場は、5G・IoTなど先端技術分野をはじめ受注が好調に推移し、売上高も増加しました。比率としては2ポイント低下し38%となりました。

グリーンの自動車市場は、自動運転、電動化を中心に好調に推移し、受注高・売上高ともに大幅に増加し、比率としては前年同期と同じ16%となりました。

グレーの半導体市場は、受注高・売上高ともに堅調に推移しており比率は前年同期と同じ15%となりました。

オレンジの「研究機関」は民間や国公立の研究機関で、例年6～8%を占めています。

一番下の「その他市場」には、化学、建築材料、食品、化粧品などさまざまな業種が含まれており、例年20～25%を占めております。

地域別売上構成比

2021年度2Q累計

海外売上高比率:53.3%



2022年度2Q累計

海外売上高比率:57.8%



地域別の売上高についてですが、為替の影響もあり、海外が特に増加し、海外売上高比率は57.8%と前年同期比で4.5ポイント高くなりました。

地域別では、中国が自動車や電子部品関連を中心に好調に推移し、比率が上昇しました。北米は自動車や電子部品・電子機器、欧州は自動車関連が堅調に推移し、比率が上昇しました。東南アジアは主にマレーシア、タイ、シンガポールが増加し比率も上昇しました。

国内については受注高・売上高ともに増加していますが、比率としては低下いたしました。

2022年度 業績予想

	2021年度	2022年度	2022年度 (百万円)			
	通期 実績	通期 期初予想	上期 実績	業績予想(10/28修正)		
				下期	通期	前期比
受注高	51,303	50,000	33,266	25,733	59,000	+15.0%
売上高	41,852	50,000	22,945	29,055	52,000	+24.2%
売上総利益 [利益率(%)]	14,003 [33.5%]	18,000 [36.0%]	7,794 [34.0%]	10,005 [34.4%]	17,800 [34.2%]	+27.1%
販管費 [販管費率(%)]	12,034 [28.8%]	13,000 [26.0%]	6,399 [27.9%]	7,401 [25.5%]	13,800 [26.5%]	+14.7%
営業利益 [利益率(%)]	1,968 [4.7%]	5,000 [10.0%]	1,395 [6.1%]	2,604 [9.0%]	4,000 [7.7%]	+103.2%
経常利益 [利益率(%)]	2,322 [5.5%]	5,100 [10.2%]	1,731 [7.5%]	2,619 [9.0%]	4,350 [8.4%]	+87.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益 [利益率(%)]	1,905 [4.6%]	3,600 [7.2%]	984 [4.3%]	1,916 [6.6%]	2,900 [5.6%]	+52.2%
設備投資額	910	1,840	489	1,351	※1,840	+102.2%
減価償却費	1,253	1,380	664	716	※1,380	+10.1%
研究開発費	1,035	1,330	499	831	※1,330	+28.5%
1株当たり当期純利益(円)	84.89	160.92	43.96	85.54	129.50	+52.6%

通期想定レートを120円から140円に見直し

※期初予想から変更なし

ESPEC CORP.

14

2022年度の業績予想としましては、受注高は上期の水準が継続するとは見ておらず、下期は期初予想を据え置き、通期で590億円としております。

売上高は、期初予想をやや上回る520億円としていますが、この差はほぼ想定レートの変更によるものです。期初の段階では通期の想定レートを120円としていましたが、140円に見直しました。

営業利益につきましては、50億円から40億円に下方修正しております。これは、調達難により生産効率の改善が進まないこと、また、さらなる部材価格の高騰をふまえているためです。また、販管費の増加も見込んでおります。

なお、受注残高は上期末時点で300億円を超えております。受注残高の解消にはまだ時間がかかる見込みですが、収益の確保に全力をあげてまいります。

設備投資および研究開発費につきましては、進捗が遅れておりますが、基本的には期初の計画のとおり進めていく考えです。

環境認識

- ・受注は上期の勢いは落ち着くが、IoTや次世代自動車など先端技術分野を中心に好調に推移すると予想
- ・米中問題や為替変動、エネルギー価格の高騰による世界経済の減速を懸念

装置事業	環境試験器	日本 : 電子部品・機器、EV・自動運転関連の投資は活況 中国 : 電子部品、EV、半導体関連を中心に投資は活況 ゼロコロナ政策による影響を懸念 ASEAN : 半導体関連を中心に投資は堅調 北米 : EV、電子部品・機器、半導体関連を中心に投資は活況 欧州 : EV・自動運転、半導体関連を中心に投資は活況
	エナジーデバイス装置	二次電池向けを中心に投資は堅調
	半導体関連装置	自動車向けを中心に投資は継続
サービス事業	アフター・エンジ 受託試験・レンタル	アフター・エンジン : 前期と同水準になると予想 受託試験 : 二次電池を中心に先端技術分野の試験需要が継続
その他事業	環境保全 植物育成装置	森づくりは堅調だが、植物育成装置が低調

こちらは現在のセグメントごとの環境認識です。

受注については、上期の勢いは落ち着くと見ていますが、IoTや次世代自動車など先端技術分野を中心に好調に推移すると予想しております。一方で、米中問題や為替変動、エネルギー価格の高騰による世界経済の減速を懸念しております。

環境試験器につきましては、ご覧のとおり日本、中国、北米、欧州は引き続き活況と見ております。ASEANについては、コロナ影響により経済活動の正常化にはまだ時間がかかると見ているものの、半導体関連を中心に堅調に推移すると予想しております。

エナジーデバイス装置は、二次電池向けを中心に投資は堅調と見ております。

半導体関連装置は、自動車向けを中心に投資は継続すると見ております。

サービス事業、その他事業につきましては、ご覧のとおりです。

2022年度の主な取り組み

装置事業

- ・先端技術分野の試験ニーズに応える製品ラインアップの拡充
- ・大型製品の海外市場投入によるカスタム製品のグローバル展開
- ・欧州市場向け製品の投入
- ・グローバルカスタマーを中心とする販売強化

サービス事業

アフターサービス : 新サービス「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大
受託試験 : 先端技術分野向け試験サービスの拡充

新規事業

医薬品コールドチェーン事業や食品機械事業における市場浸透に向けた取り組み強化

2022年度の主な取り組みはご覧の通りです。成長戦略の方向性は期初から変更はありません。各事業において、成長に向けた取り組みを進めてまいります。

セグメント別の業績予想

		2021年度	2022年度	2022年度 (百万円)			
		通期実績	通期期初予想	上期実績	業績予想(10/28修正)		
					下期	通期	前期比
装置事業	受注高	43,535	41,900	29,209	21,790	51,000	+17.1%
	売上高	34,518	42,100	19,650	24,749	44,400	+28.6%
	営業利益	1,370	4,620	1,403	2,356	3,760	+174.3%
サービス事業	受注高	6,771	6,600	3,470	3,249	6,720	△0.8%
	売上高	6,407	6,500	3,020	3,450	6,470	+1.0%
	営業利益	618	350	72	158	230	△62.8%
その他事業	受注高	1,265	1,800	747	832	1,580	+24.8%
	売上高	1,188	1,700	405	1,025	1,430	+20.4%
	営業利益	△23	30	△80	90	10	-
連結消去	受注高	△269	△300	△161	△139	△300	-
	売上高	△261	△300	△130	△169	△300	-
	営業利益	2	0	△0	0	0	-
計	受注高	51,303	50,000	33,266	25,733	59,000	+15.0%
	売上高	41,852	50,000	22,945	29,055	52,000	+24.2%
	営業利益	1,968	5,000	1,395	2,604	4,000	+103.2%

ESPEC CORP.

17

こちらはセグメント別の業績予想です。

期初予想に対しましては、装置事業は、受注高・売上高・営業利益をそれぞれ見直しております。

サービス事業につきましては、受注高・売上高は期初予想とあまり変わりませんが、営業利益については、上期実績および見通しをふまえ修正しております。

その他事業につきましても、ご覧のとおり見直しております。

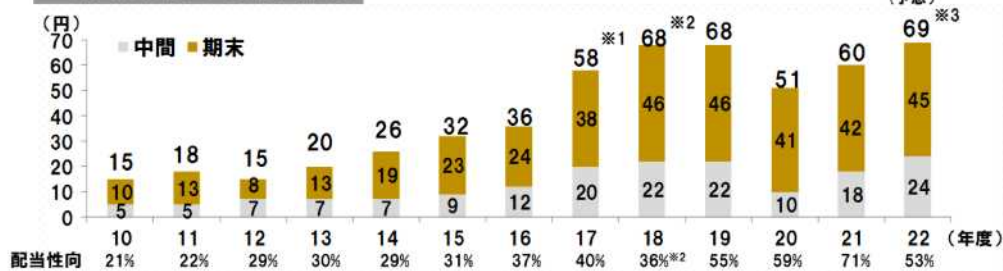
2022年度 配当予想

利益配分に関する基本方針

配当については継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本としていますが、2022年5月、配当基本方針を以下のとおり改定しました。

- ・配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に配当として上乗せする
- ・安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う
- ・必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する

一株当たり配当金と配当性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

配当予想につきましては変更はございません。

2022年度の配当につきましては、創業75周年の記念配当として、1株当たり4円をあわせた、中間24円、期末45円の年間69円を予定しております。

ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・2030年度温室効果ガス排出量削減目標を設定
- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)を策定
- 地球温暖化対策および生物多様性保全活動を強化

<温室効果ガス排出量削減目標>

2030年度	SCOPE1+2	60%削減、SCOPE3	30%削減	(2019年度比)
2025年度	SCOPE1+2	55%削減、SCOPE3	10%削減	(2019年度比)

- ・2022年6月、有価証券報告書にてTCFDに基づき情報開示

■S(社会)

- ・社員(管理職・一般)への学び直し機会の拡大
- ・女性管理職の育成など多様な人材の活躍推進

■G(ガバナンス)

- ・2022年6月、監査等委員会設置会社へ移行
- 取締役会における審議の充実化、監督機能の強化、取締役会の多様性確保(女性取締役2名)

ESGの取り組みにつきましては、ご覧のとおりです。

TOPICS 1

【国内初】車載用バッテリーパック・モジュールの不具合解析サービスを開始

- ・2022年11月、宇都宮テクノコンプレックスのバッテリー安全認証センターにて車載用バッテリーパック・モジュールの不具合解析サービスを開始
- ・パック・モジュールを解体したうえで電氣的・視覚的に診断し、不具合の部位を特定
- ・公正な第三者機関として解析サービスを提供し、車載用バッテリーの性能・安全確保に貢献



パック電池低温解体槽



セル解体用グローブボックス

TOPICSとしては、2022年11月、宇都宮テクノコンプレックスのバッテリー安全認証センターにて車載用バッテリーパック・モジュールの不具合解析サービスを開始しました。

当社は、バッテリー安全認証センターにおいて年間数百件に及ぶバッテリーの安全性試験を請け負っています。その実績により培った高い試験技術と知見を活かして、サービスの範囲を拡大し、車載用バッテリーの性能・安全性確保に貢献してまいります。

TOPICS 2

兵庫県立大学と「SDGs推進」に関する協定を締結

- ・2022年8月、兵庫県立大学とSDGs推進を目的とした協定を締結
- ・生物多様性保全、教育・人材育成、環境・エネルギーなどの分野において両者が持つ知見や技術を活かして連携



締結式
兵庫県立大学 学長 太田勲様(右)
エスベック 代表取締役会長 石田雅昭(左)

生物多様性保全活動 「エスベック50年の森」植樹祭

- ・兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくり「エスベック50年の森」を開始
- ・2022年11月、第1回植樹祭を開催
炭素固定・生物多様性機能をふまえ苗を選定
社員など約200名が参加し約4,000本を植樹



第1回植樹祭
3.6haの土地に2年間で12,000本を植樹予定

2022年8月には、兵庫県立大学とSDGs推進を目的とした協定を締結しました。生物多様性保全、教育・人材育成、環境・エネルギーなどの分野において、連携・協力してまいります。

また、兵庫県三田市にて林野庁の「法人の森林」制度を活用した「エスベック50年の森」プロジェクトをスタートしました。これは、創業75周年記念事業として行うもので、先日、第1回目の植樹祭を開催しました。当社社員など200名が参加して、約4,000本を植樹しました。苗木は、炭素固定機能や生物多様性機能を踏まえ選定いたしました。森に育てることで、CO₂の固定や洪水防止・水質浄化など、環境への貢献が期待できると見ております。

社外からの評価

2022年11月

- ・日本経済新聞社「第4回日経SDGs経営調査」4つ星
- ・日本経済新聞社「第6回日経スマートワーク経営調査」3.5星



2022年10月

- ・日刊工業新聞社（経産省後援）「第18回企業力ランキング」155位



2022年8月

- ・ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2022」優秀企業に初選定



2022年7月

- ・東洋経済新報社「2022年版SDGs企業ランキング」334位



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2022年4月

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に初選定

2022年2月

- ・東洋経済新報社「2022年版CSR企業ランキング」334位



2021年12月

- ・CDP気候変動レポート2021において2年連続「Bスコア」
- ・日興アイ・アール「2021年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト
- ・ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2021」銅賞（業種別27位）



最後に社外からの評価ですが、日本経済新聞社のSDGs経営調査、スマートワーク経営調査においていずれも昨年よりも高い評価をいただきました。今後も社会課題の解決に役立つ取り組みを進めてまいります。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。

【お問い合わせ先】

エスベック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川
IR・広報グループ 大川・姜

以上をもちまして、2022年度第2四半期決算説明を終了いたします。
ご清聴ありがとうございました。

Quality is more than a word

ESPEC